

科目名	人間科学概論		科目 ナンバリング	W22015	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目コード	W-TFSS1-01H		30時間				
区分	総合領域科目	必修	担当者名	藤岡 真之・西沢 勝則・斉藤 利男			授業 形態	講義	オムニバス	
授業の 概要等	〔授業の主旨〕 社会学、心理学、歴史学という3つの分野の知見を学ぶことで、人間、社会、文明、およびそれらの結びつきについての理解を深める。1～5回は藤岡（社会学）、6～10回は西沢（心理学）、11～15回は斉藤（歴史学）が担当する。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 DP2、CP2に関連している									
	到達 目標	<ul style="list-style-type: none"> ・人々のつながり・意識・行動・コミュニケーションが、大きな社会変化と結びついていることを理解する。（藤岡） ・人間行動に関する心理学の基本的な知見について、その概要を理解する。（西沢） ・自身の日常生活における経験等と関連付けて、心理学的知見の要点を説明できる。（西沢） ・戦争をめぐる人間の歴史を知り、戦争を空想でなく、身近な問題としてとらえることができるようになる。（斉藤） 								
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	産業化と社会的つながり		デュルケーム『自殺論』の議論を参照して、産業化の過程における社会的つながりの変化が人々にもたらしたものを考える							
第2回	リスク社会化と社会的つながり		個人の自由度を高める一方で、不安を高めることにもなる、個人化という現象について考える。							
第3回	インターネット化とコミュニケーション		エコーチェンバー、フィルターバブルという現象を通して、インターネット上のコミュニケーションの特徴を考える。							
第4回	戦後社会における社会意識の変化		高度経済成長期、ポスト高度経済成長期における、人々の意識の変化を考える。							
第5回	消費社会化と社会意識		経済と幸福の関係、脱物質主義化について考える。							
第6回	感覚・知覚の世界		感じるしくみ、恒常性、錯視、色覚							
第7回	注意と記憶		選択的注意、注意の障害、記憶障害、記憶の変容							
第8回	思考のくせ		問題解決、ヒューリスティックス、認知的不協和							
第9回	言語とコミュニケーション		言語の習得、コミュニケーションの機能、ディスレクシア							
第10回	感情の理解と共感		感情の種類、推論する心の発達、共同注意、心の理論							
第11回	戦争と文明 1、エレクトロニクスが戦を制す一命を大切にす国が勝利する		太平洋戦争最大の戦いだったマリアナ・サイパンの戦いを映像で学び、日本がなぜ惨敗したか、原因を探る。						ビデオを使用	
第12回	戦争と文明 2、原始、人間社会は平和だった一戦争はこうして始まった		古代文明社会における「戦争」の始まりと、「古代軍隊」の特徴を、日本や世界の文明社会から探る。						ビデオを使用	
第13回	戦争と文明 3、武士の誕生から戦国時代へ一武士は農民の命を大切にす		長く誤解されてきた「武士の時代」の戦争について探る、とくに織田信長の合戦の虚像を剥ぐ。							
第14回	戦争と文明 4、「太平の世」の武士の悩み一武士は何のために存在するのか		江戸時代「太平の世」の到来は、職業戦士武士を無用の存在とした。この危機を武士はどう乗り越えたか。							
第15回	戦争と文明 5、近代国家と「国民軍」の誕生一庶民の苦難の時代の始まり		近代社会の到来は戦争と軍隊のあり方を根底から変えた。「近代軍隊」の実像に迫り、未来を展望する。						ビデオを使用	
評価 方法 及び 評価 基準	(藤岡) レポートにより評価します。課題内容について、自らの思考が表現されているかどうかを評価基準とします。 (西沢) 毎回の講義で課す小レポートにより講義内容の理解度を評価します。 (斉藤) レポートを課し、出席とあわせて、評価を行います。レポートは課された課題について主体的に考えているかどうかを評価の基準とします。									
課題等										
事前事後 学修	授業で配布されるプリント、授業中に指示される文献等を参照して、理解を深めてください。 事後学習時間の目安：週当たり3時間程度。									
教材 教科書 参考書	(藤岡) 教科書は使用しません。参考書は、授業中に提示します。 (斉藤) 教科書・教材はこちらでプリントを用意し、授業の際に配付します。参考書は適宜提示します。									
留意点	(斉藤) 「歴史」は決して難しくありません。「面白そう」と思ったら、聞きに来て下さい。									

科目名	政治学（国際政治を含む）A		科目コード	W22001	単位数	2単位	対象	1年	開講	前期	
			科目ナンバリング	W-TFSS0-01	時間	30時間	学年		学期		
区分	総合領域科目	選択	担当者名	西東 克介			授業形態	講義	単独		
	教職科目（中一種【社会】） 教職科目（高一種【公民】）	選択必修 必修									
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 今日、社会全体がどちらかといえば政治に無関心な状況が蔓延しています。そこで、この講義のねらいは、政治と私たちの社会がどのような関係にあるのかを受講者に理解・意識してもらうことにあります。それゆえ、講義では制度を多く扱うよりも、それらに密接に関わる理論や傾向、あるいは考え方に力点を置きます。それゆえ、答えが出なくとも、疑問を持ち、考える習慣を身に付けてください。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 これらを基礎にして、本学部のポリシーである福祉実践者は「人づくり」、もう一つのポリシーである活発なボランティア活動が、これからの社会ではますます重要になってくることを講義内容に関連させながら話していきます。学生には、学習に支障がないように、あらゆる事にチャレンジしてほしいと思う。</p>										
到達目標	<p>受講者には以下の3点の「答え」を相応に理解してもらえればと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なぜデモクラシー（民主主義）は悪魔にもなりうるのか。 ・なぜ政治や権力が人間の社会に不可欠なのか。 ・江戸幕府までの政治組織と近代行政官僚制ではどこが異なるのか。 										
授 業 計 画											
回	主 題			授 業 内 容				備 考			
第1回	本講義概要・展開方法・試験等について			さらに、出欠や感想文とレポートの違い等の説明も行う。							
第2回	政治とは何か			学生に今までの理解で「政治」について知っていること、思っていること、感じていること等を用紙に書いてもらう。これを回収して西東がコメントしていく。							
第3回	権力とは何か・権威とは何か			M. ウェーバーの支配（権力）の正当性を使い、私たちの国・地方・コミュニティ・世界に存在する権力と権威について解説する。							
第4回	弘前市議会議員3名による講義			弘前市議会の現状とこれから							
第5回	マス・メディアと政治			民主主義体制における政治家とマス・メディアには基本的に価値観の対立がある。							
第6回	民主主義			民主主義体制のメリットとデメリット。民主主義体制以外の独裁体制のデメリット。							
第7回	日本の集団主義文化と米国の個人主義文化と			集団主義文化や個人主義文化は慣習であるが、日本の学校の集団重視教育のように、制度に取り入れられている集団主義文化も存在する。私たちのこうした慣習は集団や組織にとってメリット・デメリットの双方が現れる。KYも良かれ悪しかれ集団主義文化である。具体例をあげながら、日米の文化について分析していく。							
第8回	元NHKアナウンサーによる講義			テーマは毎年変わっています。前週の授業でお知らせします。							
第9回	国際政治を理解するための基礎知識（1）			国際政治における権力・条約・国際連合の関係							
第10回	パレスチナ・イスラエル問題の歴史（1）			NHKのドキュメンタリー番組の鑑賞							
第11回	パレスチナ・イスラエル問題の歴史（2）			パレスチナ・イスラエル問題の歴史を見ていく。ユダヤ社会とアラブ社会の歴史を概説する。							
第12回	官僚制理論（1）			官僚制理論の基礎を考察していく。M. ウェーバーの推定した組織された社会の進行は今も続いている。こうした社会のメリット・デメリットを考えたい。							
第13回	官僚制理論（2）			行政官僚制による「天下り」問題と集団主義文化							
第14回	リーダーシップと水平的集団主義文化			戦後我が国社会は垂直的集団主義文化から水平的集団主義文化に変わりつつある。だが、この水平的集団主義文化のデメリットはリーダーを生み出しにくい文化とも言われる。個人・集団・組織の自律・自立の視点を加えてこの問題を考察する。							
第15回	制度と慣習			M. ウェーバーは、制度の理論に文化を絡ませて研究業績を残した。そうした彼の研究の一部をヒントにした分析を解説する。							
評価方法及び評価基準	毎回用紙に質問か意見を一つ以上書いてもらい、評価（前期で20%）します。減点評価はしませんが、0点はあります。他の学生に参考になる質問や意見は、翌週の授業で答えたり、読んだりします。その他、レポート（30%）と試験（50%）。文章の構成と論理性を中心に評価します。										
課題等	完全な答えはないが、未来を切り開く自分や周囲の「ミッション」と活動とは何かについて、ああでもない、こうでもないと考え続けていくことができればと思う。『地方自治の基礎』のいずれかの章を一つ読んで、800字以内にとまとめて、さらに、その感想を800字以内でまとめる。										
事前事後学修	講義の前日は、新聞やネットニュースから政治記事の一つ以上読んでください。読んだ記事について、授業で突然聞かかもしれません。講義終了日は、レジュメをしっかりと読み見返し、配布した新聞記事をすべて丁寧に読んでください。										
教材教科書参考書	橋爪大三郎著『政治の哲学』ちくま新書、880円。レポート課題図書兼教科書：藤井浩司・中村祐司編著『地方自治の基礎』一芸社、2400円＋税。										
留意点	講義中や講義後の質問・感想に遠慮は必要ありません。就職活動など、欠席が事前にわかる場合は、西東に相談してください。相談内容によっては、配慮します。										

科目名	政治学（国際政治を含む）B		科目コード	W22002	単位数	2単位	対象	1年	開講	後期
			科目ナンバリング	W-TFSS0-02	時間	30時間	学年			
区分	総合領域科目	選択	担当者名	西東 克介			授業	形態	講義	単独
	教職科目（中一種【社会】） 教職科目（高一種【公民】）	選択必修 必修								
授業の概要等	〔授業の主旨〕 政治学Bは、政治学Aを基礎編とすれば応用編とも言える。民主主義体制の国では、日本国憲法第12条に示されているように、国民の「不断的努力によって」自由及び権利を保持するのである。怠けては保持されないことがあるかもしれない。どの国にも差別の問題が存在するが、その改善には長い長い年月がかかっている。我が国の平和も日本人やアジア人の多くの命が奪われた結果の後の努力により維持されているものである。私たちが努力していく方向を探るために、前期で学んだ基礎的知識を下に、さらに具体的に考察できる知識を学んでいく。									
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 政治学Bは、人権に関する講義が多いので、本学部のポリシーである福祉実践者は「人づくり」の基礎にさせていただきたい。また、NPO（NGO）の講義で、もう一つのポリシーである活発なボランティア活動にかかしてほしい。									
到達目標	・完全な答えはないが、未来を切り開く自分や周囲の「ミッション」と活動とは何かを考えていく。 ・受講者には、この「答え」をああでもない、こうでもないという行動し、考え続けていく習慣を身に付けてほしい。									
授業計画										
回	主 題			授業内容				備考		
第1回	本講義・展開方法・試験等について			さらに、出欠、感想文とレポートの違いについての確認。						
第2回	黒人差別の歴史的展開			米国黒人差別の歴史を植民地時代から19-20世紀までの概説する。						
第3回	公民権運動の動画鑑賞（1）			1950年代から1960年代までの公民権運動を撮影したものを再編集した動画の鑑賞。						
第4回	グループワーク「公民権運動について」			5人が6人ずつにわかれて話し合う。						
第5回	M. ウェーバーの政治家としての資質			M. ウェーバーの述べた政治家の資質は、政治の独特の問題への対応を除けば、あらゆる組織のリーダーにとって不可欠なものである。受講者にとって多少難解な点もあろうが、リーダーはリーダーの周囲との人間関係において成長し、周囲の人間もこれにより成長していく。良き方向に進むのか、悪い方向に進むのか。このことをリーダーと周囲の人間は、常に配慮する必要がある。						
第6回	議院内閣制・大統領制とリーダーシップ			議院内閣制と大統領制の分析とリーダーシップの関係について考察する。						
第7回	圧力団体・公益法人・NPO			圧力団体・公益法人・NPOを概説し、メリット・デメリットを分析する。						
第8回	文民統制・自衛権・集団安全保障			民主主義国家における文民統制の理解、日本国憲法第9条と個別的自衛権・集団的自衛権、双方の自衛権と国連の集団安全保障概念を理解する。						
第9回	白取克之氏による講義			白取氏が農業を始めるまでと農福連携について						
第10回	NGOとNPOのミッション			(NGOを含む) NPOの企業や行政とは異なる特徴は何か、また、そのミッションとは何か。これらを中心に考察する。						
第11回	NGOとNPOの機能と構造パターン			(NGOを含む) NPOの機能と構造パターンから、そのメリット・デメリットを考察していく。						
第12回	行政学史（1）			現代行政学は米国で生まれた。その発生の原因と新しい学問に影響を与えた学問の基本的知識の理解。						
第13回	行政学史（2）			現代行政学のパラダイムは「政治と行政の分離」である。だが、このパラダイムは批判されるが、行政学はこれにより徐々に発展していく。正統派行政学についての理解を求める。						
第14回	行政学史（3）			パーナードとサイモンが行政学に与えた基本的な学説の理解。						
第15回	欧米と我が国のセックスワーカーと社会の課題			セックスワーカーに対する差別と偏見の根源的な課題について、各国の制度から学生に考えてもらう。						
評価方法及び評価基準	毎回用紙に授業の質問と意見を一つ以上書いてもらい、これを評価（20%）する。前期のレポート（前期とは異なる章を選ぶ）か、白取氏の講義を聞いての感想文（30%）と試験1回（50%）文章の構成と論理性を中心に評価する。									
課題等	受講者である学生自身が、様々な講義の中でこれが私の政治課題であると言えるテーマを見つけてほしい。政治の課題は世の中のあらゆる問題のほとんどに関わっているから。									
事前事後学修	講義の前日は、新聞やネットニュースから政治記事の一つ以上読んでください。読んだ記事について、授業で突然聞かなくても構いません。講義終了日は、レジュメをさらっと読み見返し、配布した新聞記事をすべて丁寧に読んでください。									
教材教科書参考書	橋爪大三郎著『政治の哲学』ちくま新書、880円。レポート課題図書兼教科書：藤井浩司・中村祐司編著『地方自治の基礎』一藝社、2400円＋税。									
留意点	就職活動など、欠席が事前にわかる場合は、西東に相談してください。相談内容によっては、配慮します。									

科目名	法学（国際法を含む）A		科目コード	W22007	単位数 時間	2単位 30時間	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目ナンバリング	W-TFSS1-02						
区分	総合領域科目	選択	担当者名	大野 拓哉			授業 形態	講義	単独	
	教職科目（中一種【社会】） 教職科目（高一種【公民】）	選択必修 必修								
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>本講では、「法」という社会のルール（社会規範）について、他の社会規範とも比較しつつ、その特色や存在形態などに関する概括的な理解の形成をはかる。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの2に関連する。</p>									
到達 目標	<p>自立した一個人として「法」と向き合い、「法」を用いていける基礎を築くことはもとより、将来、援助者として不利な立場の人々に関わる際に、それらの人々の権利や利益を適切に擁護し得る基礎としての知識や理解の形成を目指す。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容				備 考		
第1回	「法」とは何か①			社会生活における「法」						
第2回	「法」とは何か②			「法」の存在形態						
第3回	「法」とは何か③			「法」は誰がつくるのか						
第4回	「法」の種類①			民事砲と刑事法						
第5回	「法」の種類②			公法と私法						
第6回	「法」の種類③			実体法と手続法						
第7回	「法」の種類④			国家法と自治法						
第8回	「法」の種類⑤			市民法と社会法						
第9回	「法」の実現①			「法」の遵守						
第10回	「法」の実現③			「法」と裁判						
第11回	「法」の実現③			「法」と法律家						
第12回	「法」の実現④			「法」の適用						
第13回	「法」の実現⑤			「法」の解釈						
第14回	「法」の実現⑥			「法」解釈の科学性						
第15回	総括			まとめと振り返り						
評価 方法 及び 評価 基準	試験（論述式）のみを評価の対象とする。									
課題等	特になし									
事前事後 学修	特に事後学修に関して、指示された文献や条文の参照を怠らないこと									
教材 教科書 参考書	五十嵐清『法学入門[第4版 新装版]』日本評論社									
留意点	法律の条文等をその場で参考出来るよう、六法類などを常に持参すること。									

科目名	法学（国際法を含む）B		科目コード	W22008	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目ナンバリング	W-TFSS1-03		30時間				
区分	総合領域科目	選択	担当者名	大野 拓哉				授業 形態	講義	単独
	教職科目（中一種【社会】） 教職科目（高一種【公民】）	選択必修 必修								
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>「法学A」で学んだことを踏まえて、「法」による社会紛争の解決はどのようなメカニズムによるのか、「法」はどのように適用されているのか、「法」の解釈とはどのような行為であるのか等の理解を深める。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの2に関連する。</p>									
到達 目標	「法学A」同様に、将来、援助者として「権利擁護」を行う為の基礎的な力を養成することを目指す。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容				備 考		
第1回	「法」と社会規範①			「法」と道徳						
第2回	「法」と社会規範②			「法」と習俗						
第3回	生活局面と「法」①			財産関係と「法」①～契約～						
第4回	生活局面と「法」②			財産関係と「法」②～不法行為～						
第5回	生活局面と「法」③			家庭生活と「法」①～婚姻～						
第6回	生活局面と「法」④			家庭生活と「法」②～親子～						
第7回	生活局面と「法」⑤			家庭生活と「法」③～相続～						
第8回	生活局面と「法」⑥			犯罪と「法」①～犯罪とは？～						
第9回	生活局面と「法」⑦			犯罪と「法」②～刑罰とは？～						
第10回	生活局面と「法」⑧			基本的人権						
第11回	生活局面と「法」⑨			立法権						
第12回	生活局面と「法」⑩			行政権						
第13回	生活局面と「法」⑪			司法権						
第14回	生活局面と「法」⑫			地方自治						
第15回	総括			まとめと振り返り						
評価 方法 及び 評価 基準	試験（論述式）のみを評価の対象とする。									
課題等	特になし									
事前事 後学修	特に事後学修に関して、指示された文献や条文の参照を怠らないこと									
教材 教科書 参考書	五十嵐清『法学入門[第4版 新装版]』日本評論社									
留意点	法律の条文等をその場で参照できるように六法類などを常に持参すること。									

科目名	社会学A		科目コード	W22009	単位数	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目ナンバリング	W-TFSS1-04	時間	30時間				
区分	総合領域科目	選択	担当者名	藤岡 真之			授業 形態	講義	単独	
	教職科目(中一種【社会】) 教職科目(高一種【公民】)	選択必修 必修								
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>社会学の基礎的な知識、概念を学ぶことを通じて、これまで知らなかった人間関係・社会現象のメカニズムや意味、社会や人間に対するこれまでとは異なった見方を学ぶ。扱うテーマは、自己、家族、ジェンダー、社会システム等。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの2に関連する。</p>									
到達 目標	<ul style="list-style-type: none"> 社会学の基礎的な知識、概念を身につける。 さまざまな水準の社会現象を、抽象的に理解できるようになる。 現実に行っている社会現象を、社会学の概念を用いて説明できるようになる。 									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容				備 考		
第1回	社会学とは何か			社会科学と社会学						
第2回	自己と他者（1）			自己と他者の関係						
第3回	自己と他者（2）			社会化						
第4回	自己と他者（3）			相互行為						
第5回	家族とジェンダー（1）			家族に関する基本的な概念						
第6回	家族とジェンダー（2）			ジェンダーと近代家族						
第7回	家族とジェンダー（3）			家族の変動						
第8回	健康（1）			自殺、依存症						
第9回	健康（2）			慢性疾患、スティグマ						
第10回	労働（1）			労働市場の性質とルール						
第11回	労働（2）			戦後日本における労働をめぐる取り組み						
第12回	世代（1）			ライフサイクル、ライフコース						
第13回	世代（2）			個人化と社会問題						
第14回	社会システム（1）			社会システムとは何か						
第15回	社会システム（2）			社会階層システム						
評価 方法 及び 評価 基準	<p>学期末に行う試験によって評価を行います。基本的な概念の理解、およびそれら基本的概念を使用して現実の社会を応用的に考えることができるかどうかという点を試す問題を出します。論述問題に関しては、内容のいかんにかかわらず、論理性を重視して評価します。</p>									
課題等										
事前事後 学修	<p>使用する教科書を読んで、理解を深めてください。準備学習時間の目安：週当たり3時間程度。</p>									
教材 教科書 参考書	<p>『最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座 第3巻 社会学と社会システム』中央法規 (ISBN: 978-4-8058-8233-7)</p>									
留意点										

科目名	社会学B		科目コード	W22010	単位数	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目ナンバリング	W-TFSS1-05	時間	30時間				
区分	総合領域科目	選択	担当者名	藤岡 真之				授業 形態	講義	単独
	教職科目(中一種【社会】) 教職科目(高一種【公民】)	選択必修 必修								
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>社会学の基礎的な知識、概念を学ぶことを通じて、これまで知らなかった人間関係・社会現象のメカニズムや意味、社会や人間に対するこれまでとは異なった見方を学ぶ。扱うテーマは、組織・集団、人口、グローバリゼーション、社会変動、地域、社会的格差等。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの2に関連する。</p>									
到達 目標	<ul style="list-style-type: none"> 社会学の基礎的な知識、概念を身につける。 さまざまな水準の社会現象を、抽象的に理解できるようになる。 現実起こっている社会現象を、社会学の概念を用いて説明できるようになる。 									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容				備 考		
第1回	組織と集団（1）			集団・組織の概念と分類						
第2回	組織と集団（2）			非営利組織						
第3回	人口（1）			高齢化、少子化						
第4回	人口（2）			人口移動						
第5回	グローバリゼーション			グローバリゼーションと社会						
第6回	社会変動（1）			前近代社会から近代社会へ						
第7回	社会変動（2）			産業化、情報社会化、消費社会化						
第8回	地域（1）			コミュニティとアソシエーション						
第9回	地域（2）			限界集落、ソーシャルキャピタル						
第10回	環境			環境問題と持続可能性						
第11回	社会的格差（1）			格差と貧困						
第12回	社会的格差（2）			雇用格差、教育格差、健康格差						
第13回	社会政策と社会問題			産業社会と社会政策						
第14回	差別と偏見			社会的排除、偏見、差別						
第15回	災害と復興			災害と社会						
評価 方法 及び 評価 基準	<p>学期末に行う試験によって評価を行います。基本的な概念の理解、およびそれら基本的概念を使用して現実の社会を応用的に考えることができるかどうかという点を試す問題を出します。論述問題に関しては、内容のいかんにかかわらず、論理性を重視して評価します。</p>									
課題等										
事前事 後学修	<p>使用する教科書を読んで、理解を深めてください。準備学習時間の目安：週当たり3時間程度。</p>									
教材 教科書 参考書	<p>『最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座 第3巻 社会学と社会システム』中央法規 (ISBN: 978-4-8058-8233-7)</p>									
留意点										

科目名	宗教学（キリスト教）A		科目コード	W23001	単位数 時間	2単位 30時間	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目ナンバリング	W-TFSS1-06H						
区分	総合領域科目	必修	担当者名	楊 尚眞			授業 形態	講義	単独	
	教職科目（中一種【社会】） 教職資格（高一種【公民】）	必修								
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>キリスト教の本質を学び、理解することにおいて、その研究対象は、古代・中世・近世・現代のキリスト教の歴史、聖書・信条・キリスト教思想である。この科目授業において、イエス・キリストの生涯を中心にキリスト教の本質を学ぶ。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの3に関連している。</p>									
到達目標	キリスト教を学び、理解することを通して、本学の建学精神である「畏神愛人」という生き方を多面的に探求することを学ぶ。また、キリスト教信仰と文化を幅広く理解し、人間とは何なのかを一層深く理解する態度を養い、理解する主体である「自分」を内省する視点を習得する。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容				備 考		
第1回	神の言葉である聖書			旧・新約聖書の構成、聖書の信憑性、聖書と啓示				講義と課題解決型学修		
第2回	神の子イエス・キリスト①			イエスの時代的背景、イエスの福音宣教活動、イエスの説教、				講義と課題解決型学修		
第3回	神の子イエス・キリスト②			イエスの奇跡の働き、イエスので教育、イエスの三つの役割、				講義と課題解決型学修		
第4回	神の子イエス・キリスト③			貧しい者への関心、障がい者や病人に対する関心、				講義と課題解決型学修		
第5回	神の子イエス・キリスト④			イエスの受難、復活、昇天、再臨				講義と課題解決型学修		
第6回	キリストの神			神の存在、創造主である神、啓示の神、聖霊の神、				講義と課題解決型学修		
第7回	神の霊である聖霊			聖霊の働き、聖霊と火のバプテスマと聖霊充滿				講義と課題解決型学修		
第8回	三位一体論			三位一体の神				講義と課題解決型学修		
第9回	キリストの体なる教会			教会の誕生、教会の本質と特徴、教会の機能				講義と課題解決型学修		
第10回	天国論と地獄論			旧・新約聖書と死後の世界、死後の世界である天国と地獄				講義と課題解決型学修		
第11回	天使論と悪魔論			聖書と天使の存在と働き、聖書と悪魔の存在と働き				講義と課題解決型学修		
第12回	キリスト教人間論			人間とは何か、人間と神との関係、人間の自己喪失と回復、原罪				講義と課題解決型学修		
第13回	キリスト教信仰			信仰と救い、信仰生活、信仰の構成要素、知性、感情、意志、				講義と課題解決型学修		
第14回	キリスト教礼拝			礼拝という言葉の意味、礼拝の本質、聖礼典				講義と課題解決型学修		
第15回	まとめ			授業の総括						
評価方法及び評価基準	<p>1. 期末試験（30%） 2. 講義への参加態度（30%） 3. 礼拝出席（20%） 4. 礼拝感想文（20%）キリスト教についての基本的理解を示す試験問題を出し、キリスト教に関する一般知識を評価する。講義への参加態度と礼拝出席は積極性を評価、礼拝感想文は説教に照らして自己省察の内容と論理性を評価する。</p>									
課題等	課題の礼拝感想文の内容において要求され評価される4つの事柄をフィードバックとして講義で説明する。									
事前事後学修	教科書の内容を予め精読し、講義後においては理解した事柄をノートに整理する。予習と復習のために一日1時間を費やす。									
教材教科書参考書	1. キリスト教の世界（楊尚眞著） 2. 聖書 3. 讃美歌21									
留意点	講義と礼拝は必ず出席。講義においては質問やディスカッションを奨励。オフィスアワー：水曜日10時 - 18時									

科目名	宗教学（キリスト教）B		科目コード	W23002	単位数 時間	2単位 30時間	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目ナンバリング	W-TFSS1-07H						
区分	総合領域科目	必修	担当者名	楊 尚眞			授業 形態	講義	単独	
	教職科目（中一種【社会】） 教職資格（高一種【公民】）	必修								
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>キリスト教を学び理解することは単に知的認識にとどまらず、その人の考え方、生き方や態度に影響を及ぼす。聖書を通して神を知り神の真理を知ることは、人間側に全人格的な経験と関係呼び起こし、神の意思に向けて決断を迫る生きた返答を生み出す。日常の人間関係の問題に目を向け、それらの諸問題に対してキリスト教的な思考と解答を生み出すことによって、創造主である神の前にて責任のある倫理的な生を生きることができる。本科目授業では、聖書の教えに基づいて人間の実存的で普遍的な問題を捉え、キリスト教的な解答を追及すること試みる。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの3に関連している。</p>									
到達 目標	<p>神は、人間を自由な存在として創造し、人間は自由意思をもって生きる存在であるが、人間が神を知り、神を畏れ、歴史の中で動く生きた神との関係に入り、生活のあらゆる領域において倫理的な決断をすることを求める。本学の建学精神である「畏神愛人」の「畏神」は神に対しての关系的・経験的な知り方を意味する。「神を畏れることは、知恵の初め」（箴言1：7）とあるように、この世のすべての問題解決への真の知恵である聖書的価値観を学び、学習者の思考形成、人間形成に寄与するようになることを目標とする。</p>									
授業計画										
回	主 題			授 業 内 容				備 考		
第1回	キリスト教の人間関係論			関係優先教訓、関係の法則と技術、関係法則の伝達方法				講義と課題解決型学修		
第2回	キリスト教の自画像論			自己の回復、自画像と他者との関係、肯定的自画像形成				講義と課題解決型学修		
第3回	キリスト教の人間理解論			人間の実存の理解、自分と他者の相違点の理解				講義と課題解決型学修		
第4回	キリスト教の責任論			人間関係崩壊の原因、責任の法則と成熟なる関係				講義と課題解決型学修		
第5回	キリスト教の憤慨管理論			憤慨の原因、憤慨の理解、憤慨の管理				講義と課題解決型学修		
第6回	キリスト教の容赦論			心の傷と治癒、神の愛と治癒、赦しと人間関係回復				講義と課題解決型学修		
第7回	キリスト教の友情論			友情と隣人愛、友情と賞賛、友情と自己犠牲、友情と苦難の克服				講義と課題解決型学修		
第8回	キリスト教の対話論			対話の重要性、成熟な対話の学び、対話の法則				講義と課題解決型学修		
第9回	キリスト教の傾聴論			傾聴の重要性、傾聴の方法				講義と課題解決型学修		
第10回	キリスト教の親切論			イエスの親切心、親切心と隣人愛、親切心と成長				講義と課題解決型学修		
第11回	キリスト教の激励論			激励と自己の超越、激励の意味、激励の原理				講義と課題解決型学修		
第12回	キリスト教の葛藤克服論			葛藤問題の肯定的な面と否定的な面、葛藤問題克服の聖書的方法、				講義と課題解決型学修		
第13回	キリスト教の称赞論			称赞の意味と目的、称赞の技術、称赞と人間関係				講義と課題解決型学修		
第14回	キリスト教の関係回復論			人間関係回復の方法				講義と課題解決型学修		
第15回	まとめ			授業の総括						
評価 方法 及び 評価 基準	<p>1. 期末試験（30%） 2. 講義への参加態度（30%） 3. 礼拝出席（20%） 4. 礼拝感想文（20%）キリスト教についての基本的理解を示す試験問題を出し、キリスト教に関する一般知識を評価する。講義への参加態度と礼拝出席は積極性を評価、礼拝感想文は説教に照らして自己省察の内容と論理性を評価する。</p>									
課題等	<p>課題の礼拝感想文の内容において要求され評価される4つの事柄をフィードバックとして講義で説明する。</p>									
事前事後 学修	<p>教科書の内容を予め精読し、講義後においては理解した事柄をノートに整理する。予習と復習のために1日1時間を費やす。</p>									
教材 教科書 参考書	<p>1. キリスト教の世界（楊尚眞著） 2. 聖書 3. 讃美歌21</p>									
留意点	<p>講義と礼拝は必ず出席。講義内容に関する質問やデスクッションを奨励。オフィスアワー：水曜日10時 - 18時</p>									

科目名	歴史学A		科目コード	W23005	単位数	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目ナンバリング	W-TFSS0-03	時間	30時間				
区分	総合領域科目	選択	担当者名	斉藤 利男				授業 形態	講義	単独
	教職資格(高一種【歴史】)	必修								
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 「海を媒介とする交流と文化・文明史」の視点から、古代地中海世界の誕生、ギリシアとローマ、ユーラシア東西交流、イスラム帝国とアジアの大航海時代の開始、の順で、古代から中世初めの世界史の学習を行います。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 カリキュラムポリシーの2および、ディプロマポリシーの3に関連している。</p>									
到達目標	他の専門科目や二年次以降の専門科目の学習に必要な世界史（「交流と文化・文明史」の視点からみた古代から中世のユーラシアの歴史）に関する基本的知識を理解し説明できるようになり、歴史的なものの考え方や分析の方法を身につける。									
回	主 題			授業内容				備考		
第1回	オリエンテーション			本授業のねらいを、映像を利用しながら説明します。				講義形式		
第2回	古代エジプト文明の実像（1）			古代エジプト文明についての認識の発展を、映像から学ぶ				講義形式		
第3回	古代エジプト文明の実像（2）			研究の発展をふまえた新たな視点からエジプト文明の実像を学ぶ				講義形式		
第4回	海洋民族フェニキア人と地中海世界			エジプト文明を支えた海洋民族フェニキア人について学ぶ				講義形式		
第5回	海洋民族ギリシア人			古代エーゲ海世界とギリシア人の登場について学ぶ				講義形式		
第6回	古代ギリシアの発展と地中海世界			地中海世界と古代ギリシア社会の発展について学ぶ				講義形式		
第7回	都市国家アテナイ			古代ギリシアの黄金時代と都市国家アテナイについて学ぶ				講義形式		
第8回	ローマ帝国とは、映像から学ぶ			映像からローマ帝国について学ぶ、ミニレポートは前半の総括				講義形式		
第9回	地中海帝国「ローマ帝国」の誕生（1）			ローマ帝国誕生の前史を学ぶ				講義形式		
第10回	地中海帝国「ローマ帝国」の誕生（2）			都市国家から海洋国家へのローマの発展について学ぶ				講義形式		
第11回	地中海帝国「ローマ帝国」の誕生（3）			地中海帝国「ローマ帝国」の誕生について学ぶ				講義形式		
第12回	シルクロードとユーラシアの海の道			ユーラシア東西交流の始まりについて学ぶ				講義形式		
第13回	イスラム帝国とアジアの大航海時代			イスラム帝国の登場とアジアの大航海時代の開始について学ぶ				講義形式		
第14回	イスラム帝国とイスラム文化			「イスラムとは何か」を学びイスラムに対する誤解を正す				講義形式		
第15回	「海のシルクロード」の誕生			アジアの大航海時代と「海のシルクロード」について学ぶ				講義形式		
評価方法及び評価基準	毎回講義終了後、講義の内容に関するミニレポートを提出してもらい（15回×2点＝30点、30%）、また学期末に、講義の内容と到達目標に応じた定期試験を行います（70点、70%）。定期試験は答案の構成や論理性を重視し、両者を合わせて総合評価（合計100点、100%）とします。									
課題等	提出されたミニレポートは、次回の授業で紹介し（質問には回答を行います）、授業内容に反映させます。									
事前事後学修	授業で紹介する参考図書を読んでおいて下さい。授業後は講義の内容と参考図書を照らし合わせて、再確認したり、考える機会とするのが理想的です。									
教材教科書参考書	当方作成の講義テキスト（地図・写真・資料つき）を教材として配布します。参考書は講義の進行に合わせて指示します。									
留意点	知は力なり、そして継続も力です。講義内容に対する突っ込んだ質問を大いに歓迎します。									

科目名	歴史学B		科目コード	W23006	単位数	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目ナンバリング	W-TFSS0-04	時間	30時間				
区分	総合領域科目	選択	担当者名	齊藤 利男				授業 形態	講義	単独
	教職資格(高一種【歴史】)	必修								
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>「海を媒介とする交流と文化・文明史」の視点から、アジアの第2次大航海時代、モンゴル帝国、ユーラシア東西交通の発展、大航海時代の順で、中世から近世初めの世界史の学習を行います。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>カリキュラムポリシーの2および、ディプロマポリシーの3に関連している。</p>									
到達目標	他の専門科目や二年次以降の専門科目の学習に必要な世界史（「交流と文化・文明史」の視点からみた中世から近世の世界史）に関する基本的知識を理解し説明できるようになり、歴史的なものの考え方や分析の方法を身につける。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容				備 考		
第1回	オリエンテーション			本授業のねらいを、映像を利用しながら説明します。				講義形式		
第2回	アジアの第二次大航海時代			「アジアの大航海時代」の発展について学ぶ				講義形式		
第3回	「陸と海の巨大帝国」モンゴル元帝国			海のシルクロードの黄金時代をもたらしたモンゴル帝国について学ぶ				講義形式		
第4回	クビライの海上帝国建設			クビライが進めたモンゴル海上帝国の建設について学ぶ				講義形式		
第5回	海のシルクロードの黄金時代			クビライ時代の海のシルクロードの活況について学ぶ				講義形式		
第6回	世界史の新たな時代			モンゴル時代が世界史の新たな時代を開いたことを学ぶ				講義形式		
第7回	モンゴル帝国の解体とユーラシアの再編			モンゴル帝国解体後の世界史を学ぶ、ミニレポートはここまでの総括				講義形式		
第8回	大航海時代への序曲			「大航海時代」はどのようにして始まったのかを学ぶ				講義形式		
第9回	海洋王国ポルトガルと大航海時代の開始			海洋国家ポルトガルの登場とエンリケ航海王子の事業について学ぶ				講義形式		
第10回	コロンブスの大西洋横断航海と新大陸発見			コロンブスの「新大陸発見」の内容と意義を学ぶ				講義形式		
第11回	バスコ・ダ・ガマと大航海時代の本格開始			バスコ・ダ・ガマのインド航路開拓とその意義について学ぶ				講義形式		
第12回	ポルトガル海洋帝国			海洋帝国ポルトガルの黄金時代とその実像について学ぶ				講義形式		
第13回	スペイン植民地帝国			「太陽の沈まぬ大帝国」スペインについて学ぶ				講義形式		
第14回	「大航海時代」がもたらしたもの（1）			大航海時代と世界史の新時代について学ぶ				講義形式		
第15回	「大航海時代」がもたらしたもの（2）			大航海時代以後の世界史の変容を学ぶ				講義形式		
評価方法及び評価基準	<p>毎回講義終了後、講義の内容に関するミニレポートを提出してもらい（15回×2点＝30点、30%）、また学期末に、講義の内容と到達目標に応じた定期試験を行います（70点、70%）。定期試験は答案の構成や論理性を重視し、両者を合わせて総合評価（合計100点、100%）とします。</p>									
課題等	提出されたミニレポートは、次回の授業で紹介し（質問には回答を行います）、授業内容に反映させます。									
事前事後学修	授業で紹介する参考図書を読んでおいて下さい。授業後は講義の内容と参考図書を照らし合わせて、再確認したり、考える機会とするのが理想的です。									
教材教科書参考書	当方作成の講義テキスト（地図・写真・資料つき）を教材として配布します。参考書は講義の進行に合わせて指示します。									
留意点	知は力なり、そして継続も力です。講義内容に対する突っ込んだ質問を大いに歓迎します。									

科目名	心理学 A		科目コード	W23007	単位数	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目ナンバリング	W-TFSS1-08	時間	30時間				
区分	総合領域科目	選択	担当者名	佐々木 正晴			授業 形態	講義	単独	
	社会福祉士指定科目 精神保健福祉士指定科目	選択必修								
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>人間行動の基礎過程である心の活動を探索する。心理学研究史を概観し、その意義、方法論を探り、看護活動や福祉活動など現場領域を視野に入れ、脳と心の関係、感覚・知覚、欲求・行動の成り立ちを探索。学習・記憶、言語・思考、情動・動機づけ、発達・学習、パーソナリティ、対人関係・社会行動など、実験論文を通して、人間行動を総合的に考える。</p> <p>ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの2に関連している。</p>									
到達 目標	<p>1. 人の心の基本的な仕組みと機能を理解し、環境との相互作用で生じる心理的反応を理解する。</p> <p>2. 心の仕組みと日常生活における関連性を理解する。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	心理学の歴史と対象			心理学誕生の経緯と歴史、その対象を知り、学問の成り立ちを探索						
第2回	心理学の方法			生態学的心理学、認知行動科学を中心に、心理学の方法論を探索						
第3回	心理学の特殊的方法			逆さめがね、開眼手術の事例研究法の独自性を探索						
第4回	心の生物学的基礎			脳の構造、神経機能を捉え、心の遺伝性-環境性を探索						
第5回	脳と心の関係性			脳損傷者のリハビリ、視覚障害者・水頭症者の脳の活動を探索						
第6回	感情の成り立ち			感情の仕組みと機能を捉え、感情の個人差の実体を探索						
第7回	動機づけ・欲求の生起条件			学習意欲に関する実験から、その生起条件を探索						
第8回	感覚・知覚系の機能			知覚の情報処理過程をアフォーダンス理論から探索						
第9回	知覚の障害と形成			知覚系活動に障害があるとき、その形成過程を探索						
第10回	学習・行動の成立			古典的条件づけ・道具的条件づけと馴化・鋭敏化の関係性を探索						
第11回	日常生活での学習成立の条件			生活場面において学習が成立する具体例を列挙する						
第12回	認知活動の形成			記憶・注意活動が認知過程に与える影響を探索						
第13回	言語・思考系活動と認知活動			言語と思考の成り立ちを知り、認知系活動との関連性を探索						
第14回	個性の形成			知能検査、性格検査の概要を知り、個人差の由来を探索						
第15回	心の活動の個人差			心の活動全般において個人差が起こる。個人差と共通性を探索						
評価 方法 及び 評価 基準	<p>講義で毎回小レポートを課する(15回×3点=45点)。翌週提出する大きなレポート3回(3回×10点=30点)。最終16回目試験(25点)。</p> <p>レポート、試験はテーマに応じて論理的に構成されているか、評価する。</p>									
課題等	<p>毎回行う小レポートは講義時に解説。大レポートは提出後に解説する。</p>									
事前事後 学修	<p>毎回の授業最後にレポートを課し、次回授業冒頭で解説する。レポート作成の所要時間の目安は3時間である。</p>									
教材 教科書 参考書	<p>なし。プリント配布。</p>									
留意点	<p>心を込めてレポートを書くこと。</p> <p>連絡先：sasaki@hirogaku-u.ac.jp オフィスアワー：(木)14:20~15:50</p>									

科目名	心理学B		科目コード	W23008	単位数 時間	2単位 30時間	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目ナンバリング	W-TFSS1-09						
区分	総合領域科目	選択	担当者名	佐々木 正晴				授業 形態	講義	単独
	社会福祉士指定科目 精神保健福祉士指定科目	選択必修								
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>人間行動の基礎過程である心の活動を探索する。心理学研究史を概観し、その意義、方法論を探り、看護活動や福祉活動など現場領域を視野に入れ、脳と心の関係、感覚・知覚、欲求・行動の成り立ちを探る。学習・記憶、言語・思考、情動・動機づけ、発達・学習、パーソナリティ、対人関係・社会行動など、実験論文を通して、人間行動を総合的に考える。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの2に関連している。</p>									
到達目標	<p>1. 人の成長・発達段階の各期に特有な心理的課題を理解する。</p> <p>2. 日常生活と心の健康との関係性について理解する。3. アセスメントの方法と支援について理解する。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考
第1回	人と環境：成長・発達期			人と環境の相互関係性を人の成長・発達期から探る						
第2回	人と環境：集団・組織			対人関係に関する実験を総覧して良好な関係をつくる条件を探る						
第3回	心の発達過程			認知、言語、感情の発達過程を並べ、相互の関連性を探る						
第4回	ライフステージと幸福			生涯発達を現代的課題と関連させて幸福感の姿を探る						
第5回	日常生活と心の健康			心の不適応の具体例を列挙して現状を知る						
第6回	心の健康、その条件			レジリエンス、首尾一貫感覚を参考に心の健康の成立条件を探る						
第7回	アセスメントの支援と方法			心理アセスメントの方法を知り、事例定式化を図る。						
第8回	心理的支援の基本的な方法			ソーシャルワークにおける基本的心理的支援方法について知る						
第9回	支援方法の展開			マイクロカウンセリング、動機づけ面接技法など多様な方法を知る						
第10回	心理療法とアセスメント（1）			精神分析、認知行動療法、応用行動分析の観点から支援方法を探る						
第11回	心理療法とアセスメント（2）			家族療法、ブリーフセラピー、対人関係療法の観点から探る						
第12回	心理の専門職			公認心理師について理解を深める						
第13回	心の活動の形成と日常生活			心の仕組みに関する理論と日常生活の関連性を具体例を通して探る						
第14回	現代的課題と心理学			「いじめ」について取り上げ、心理学観点からその解決方法を探る						
第15回	総括			心の活動について受講生一人一人が結論を出す						
評価方法及び評価基準	<p>講義で毎回小レポートを課する（15回×3点＝45点）、翌週提出する大きなレポート3回（3回×10点＝30点）、最終16回目試験（25点）。レポート、試験はテーマに応じて論理的に構成されているか、評価する。</p>									
課題等	<p>毎回行う小レポートは講義時に解説。大レポートは提出後に解説する。</p>									
事前事後学修	<p>毎回の授業最後にレポートを課し、次回授業冒頭で解説する。レポート作成の所要時間の目安は3時間である。</p>									
教材教科書参考書	<p>なし。プリント配布。</p>									
留意点	<p>心を込めてレポートを書くこと。 連絡先：sasaki@hirogaku-u.ac.jp オフィスアワー：（木）14：20～15：50</p>									

科目名	スポーツ科学概論		科目コード	W23011	単位数	2単位	対象	1年	開講	前期
	総合領域科目	選択	科目ナンバリング	W-TFSSI-10	時間	30時間	学年		学期	
区分	教職科目	選択必修	担当者名	棟方 達也			授業形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>スポーツは遊びです。しかしスポーツは、現代社会に広く浸透し、文化的生活に多大な影響を与える存在となっているだけでなく、物質的にも精神的にも世界を動かす大きな要因となっています。特に今年はスポーツ界の象徴であり縮図とも言えるオリンピックが去年からの延期で東京で開催される予定です。このオリンピックを中心にスポーツを多角的に概観し、スポーツ像を再構築します。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの1及び3に関連している。</p>									
到達目標	スポーツの存在意義を再認識し、スポーツを理解し新たなスポーツ像を描く視点を学ぶ。									
授業計画										
回	主題		授業内容					備考		
第1回	ガイダンス及び導入		単位、評価、科目の位置付け等の説明。スポーツを学問の対象にするとはどういうことか。							
第2回	身体運動とは？		身体運動の存在意義を人類の歴史に即して捉える。					ppt. スライドとプリントを使って講義		
第3回	身体運動のスポーツ化		身体運動が実用術から非実用術へ移行しスポーツ化する過程を理解する。					ppt. スライドとプリントを使って講義		
第4回	オリンピックという存在		そもそもオリンピックというスポーツイベントはどのようなものなのかを『オリンピック憲章』に基づいて解説する。(JOCのホームページで『オリンピック憲章』を探してみよう。)					ppt. スライドとプリントを使って講義		
第5回	古代オリンピック		古代ギリシャで長年開催されていた古代オリンピックから当時のスポーツ観やスポーツの存在価値を知る。					ppt. スライドとプリントを使って講義		
第6回	近代オリンピックの歴史1		その始まりと理念及び第2次世界大戦以前の普及と存在意義の変容					ppt. スライドとプリントを使って講義		
第7回	近代オリンピックの歴史2		日本と近代オリンピックの関係を歴史的に見る(JOCホームページ等参照)					ppt. スライドとプリントを使って講義		
第8回	映像資料に見るオリンピック		オリンピックの精神やエピソード、魅力等を紹介するDVDの視聴と解説					DVDを資料に使う講義		
第9回	オリンピックビジネス		特にプロ解禁以降、世界を動かすビジネスとして拡大し続けるオリンピックを商業主義の観点からふまえて分析する。					ppt. スライドとプリントを使って講義		
第10回	ドーピング1		ドーピングの実態とアンチ・ドーピングへの世界的な取り組みを理解する。(JADAやJOC等のホームページ参照)					ppt. スライドとプリントを使って講義		
第11回	ドーピング2		ドーピングの実態とアンチ・ドーピングへの世界的な取り組みを理解する。(JADAやJOC等のホームページ参照)					ppt. スライドまたはDVDを使って講義		
第12回	各論1(スポーツと国際情勢)		スポーツ界から見る国際情勢を「伝播」「宗教」「女性」といった観点から捉える。					ppt. スライドとプリントを使って講義		
第13回	各論2(スポーツと自然)		自然を対象とする身体運動の概念と科学の進歩によるアウトドアスポーツ(登山を例に)の変容を理解する					ppt. スライドとプリントを使って講義		
第14回	各論3(パラリンピック)		パラリンピックが現在の地位を得るまでの歴史と現状を理解し、TOKYO2020パラリンピックの観戦に備える。					ppt. スライドとプリントを使って講義		
第15回	総括		これまでの講義全体を振り返り、補足や要点の整理をする。試験の傾向と対策							
評価方法及び評価基準	試験：100% (講義で扱ったスポーツに関する最低限の知識及びスポーツに対する認識と理解度を問う設問集) ※配布したプリント(ppt. スライド)に加えて、講義内容をしっかりノートしていることを前提に問題を出す。									
課題等	オリンピックをはじめとするスポーツ関連の情報(ニュース等)に日頃から注意を向ける。									
事前事後学修	JOC(日本オリンピック委員会)、JADA(日本アンチ・ドーピング機構)、TOKYO2020オリ・パラ組織委員会等のホームページの情報を講義内容の理解(特に復習)に活用することが有効である。									
教材教科書参考書	ppt. スライド使用、プリント配布、DVD									
留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・出席は取りませんが、自身でしっかりノートを取らないと、後でプリントだけ見ても理解できません。 ・教職免許のために確実に「体育(2単位)」を習得したい人は、実技も2種目(2単位分)履修するという保険を掛けることをお勧めします。 									

科目名	ヘルスサイエンス論		科目コード	W23022	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目ナンバリング	W-TFSS1-11		30時間				
区分	総合領域科目	選択	担当者名	宇田 宗弘			授業 形態	講義	オムニバス	
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕 健康を保持増進したり、疾病の予防や早期発見と早期治療を行うには、健康や疾病についての基礎知識が必要である。また自分自身の健康のみでなく、家族の健康や職業などで他者の健康にかかわることも考えられることから、健康や疾病の知識を持つことは有益である。本講義は主に身体活動と体力・栄養・休養の視点から健康の保持増進について解説する。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 社会福祉学部のディプロマポリシーの2、およびカリキュラムポリシーの3に関連する。</p>									
到達 目標	人体の臓器（または組織）の基本的な機能を理解するとともに、現在人の健康の保持増進についての基礎知識を身につける。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容				備 考		
第1回	授業の進め方などの説明、および熱中症について			授業の進め方と評価方法の説明、体温調節、熱中症の分類						
第2回	健康とは、健康問題の概観			健康の概念、統計からみた現代の健康問題、健康問題の発生要因						
第3回	栄養と健康、消化と吸収のしくみ			消化と吸収のしくみ、栄養素の機能、サプリメント						
第4回	栄養と健康			肥満、糖尿病、高脂血症						
第5回	ヒトの心身の健康を知る			健康診断の意義、心の健康・不健康						
第6回	身体活動とエネルギー代謝、筋線維組成			筋収縮のエネルギーとATP供給システム、筋線維タイプ						
第7回	身体活動（身体運動）と呼吸・循環系			身体運動時の呼吸数、心拍数、および酸素摂取量の変化						
第8回	身体活動（身体運動）と健康			体力と健康関連体力、生活習慣病と身体運動						
第9回	身体運動のプログラム			トレーニングの原理・原則、ACSMとWHOによるガイドライン、健康づくりのための身体活動基準2013(アクティブガイド)						
第10回	健康増進施策について			世界の健康増進施策、健康日本21						
第11回	身体運動（スポーツ）による外傷・障害と応急処置			急性損傷、慢性損傷、RICE処置、突然死、過換気症候群						
第12回	アルコール、喫煙、睡眠と健康			アルコールや喫煙による急性・慢性の影響と健康、睡眠の役割						
第13回	アダプテッド・スポーツ			アダプテッド・スポーツとは？、アダプテッド・スポーツの歴史と考え方						
第14回	生物学的女性の健康と医学			性ホルモンの変化と卵巣および月経周期						
第15回	生物学的女性の健康と医学			月経関連疾患（PMS、月経困難症など）						
評価 方法 及び 評価 基準	2/3以上の出席者につき、定期試験（100%）によって評価し、60%（60点）以上を合格とします。									
課題等	なし									
事前 事後 学修	教科書は指定していませんが、各回の授業内容について図書館などを利用して各自で予習（1.5時間）をしてください。また復習として授業で説明した内容やその根拠、関連する事柄、疑問点などについて官公庁の資料や研究論文、書籍などで調べてください（1.5時間）。									
教材 教科書 参考書	講義時に必要なプリントを配布します。									
留意点	新聞や雑誌の健康に関する記事や生活・科学欄を読むようにしてください。また質問や疑問がある場合は6号館（看護学部棟）の宇田研究室に来てください。									

科目名	スポーツ科学実技A (バスケット1)		科目コード	W23012	単位数	1単位	対象 学年	全学年	開講 学期	前期
			科目ナンバリング	W-TFSS0-05	時間	16時間				
区分	総合領域科目	選択	担当者名	棟方 達也			授業 形態	実技	単独	
	教職科目	選択 必修								
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>バスケットボールの最も基本的な個人の動きからゲームにおけるチーム（5人）の攻防の展開までを論理的に理解しつつ実践を学びます。但し、実技の授業は、通常、予習や復習ができません。また週に一度の授業で技術はほとんど上手くはなりません。しかし、結果に関わらず「どうすれば」あるいは「なぜそうするのか」を理解し、実際にやってみることが重要です。尚、部活動経験者等との格差を考慮し、また、オフェンス上達の弊害となる無駄な（無意味な）ドリブルの多用を防ぐため原則としてドリブルを使用しないオフェンスに特化します。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの3に関連している。</p>									
到達 目標	<p>バスケットボールという球技を合理的に理解する。そのために、動きや体の使い方の意味を理解し、実践においては、チームの一人一人に必ず役割とやるべきことがあることをふまえ、何をすべきか判断し積極的に動くよう努力する。技術的には、オフェンスにおいては最低限のパスワークとステップ及び連携を体得する。また、マンツーマンディフェンスにおける基本的な構えと位置どりや体の使い方を理解する。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容					備 考		
第1回	ガイダンス		受講者数、経験の有無等の確認 体育館での実技授業の受講に関わる留意点の伝達（コロナ対策含む） ルーブリック配布					場所：体育館（着替えは不要）		
第2回	講義 1		1. 名称、歴史、コート規格等 2. 最終的に5対5のゲームをする際に、最低限知っておくべきルールの解説。					場所：教室		
第3回	講義 2		基礎知識の確認と筆記テスト							
第4回	基本の動き 1		ストップ動作を基軸とするウォーク、ラン、ステップの確認とそれらに関連する重心移動 フットワーク各種、対人の動き							
第5回	基本の動き 2		フットワーク各種、対人の動き							
第6回	基本の技術 1		ボールハンドリング、ピポット、キャッチ、パス、ミート 等							
第7回	基本の技術 2		対面パス（各種のパス）、動きのあるパス、パス&ラン（三角パス、四角パス）							
第8回	オフェンス 1		パス&ラン、シュートの基本（セット、ランニング）、2メン							
第9回	オフェンス 2		シュートの基本、2メン、3メン（3線の理解）							
第10回	オフェンス 3		3メン、アウトナンバー（2対1、3対2）、得点の確率を上げるための合理的な展開							
第11回	ディフェンス 1		マンツーマンディフェンスの基本（位置取りの原則、ボールラインの理解、視野等）1対1							
第12回	ディフェンス 2		マンツーマンディフェンスの基本（位置取りの原則、ボールラインの理解、視野等）2対2、							
第13回	ディフェンス 3		マンツーマンディフェンスの基本（位置取りの原則、ボールラインの理解、視野等）3対3、アウトナンバーディフェンス							
第14回	攻防の展開 1		5対5（ゲーム形式）							
第15回	攻防の展開 2 及び実技テスト		5対5（ゲーム形式）、実技テスト							
評価 方法 及び 評価 基準	授業への参加度：50% 実技テスト：30% 筆記テスト：20% （出席、遅刻、早退の扱いと実技テストについては「ルーブリック」を参照）									
課題等	特に無し									
事前 事後 学修	筆記テストへの対応として、最初に配布するプリントの内容と授業内で確認するルールをよく理解しておくこと。実技ですから通常は予習、復習は不可能でしょう。									
教材 教科書 参考書	使用しない									
留意点	女子のみ受講可 3学部合同で実施 定員：24名 受講希望者が24名を超えた場合は、抽選とします。また、受講者が10名に満たない場合は5対5のゲームができないので、内容を大幅に変更、もしくは開講しない場合もあります。									

科目名	スポーツ科学実技B (シーカヤック)		科目コード	W23013	単位数	1単位	対象 学年	全学年	開講 学期	前期集中
			科目ナンバリング	W-TFSS0-06	時間	16時間				
区分	総合領域科目	選択	担当者名	棟方 達也 尾形 信(実務経験のある教員)			授業 形態	実技	単独	
	教職科目	選択 必修								
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕 シーカヤックとは、海で漕ぐカヤックのことです。シーカヤックツアーをメインとする海浜野外活動（SAP体験あり）を体験学習します。2泊3日のキャンプ形式です。※尚、授業に関する情報はTwitter『アカウント：hirogaku254』にて配信していますので参考してください。 ※専門演習Ⅰ（棟方）選択指定科目</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの3に関連している。</p>									
到達 目標	<p>・シーカヤックの基本操作の習得 ・自然との望ましいつきあい方の体得 ・野外での衣食住と共同生活への順応</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容				備 考		
1	ガイダンスと事前学習（7月）			受講心得、交通手段、費用、装備等について 基本作業の確認				掲示に注意		
2	実習			<p>実習地：北海道泊村盃海岸（予定）</p> <p>日 程：8月3週目（予定） （2泊3日）</p> <p>内 容 ・陸上指導 ・海上実践練習</p> <p>・ショートツアー</p> <p>・キャンプサイトの設営と撤収 ・ソロテント生活</p> <p>・たき木調達とたき火の管理</p> <p>・食料、飲料水の管理と野外炊事</p> <p>・各種海浜野外活動（各自）</p> <p>指導者：尾形 信</p>				<p>・2人乗り艇</p> <p>・個別活動</p>		
評価 方法 及び 評価 基準	ガイダンス及び実習の活動状況：100% ※ガイダンスを無断欠席した場合は、実習に参加できません。									
課題等	特に無し									
事前事後 学修	〔事前〕現地で実施したい個別活動の計画と準備									
教材 教科書 参考書	使用しない									
留意点	<p>定員：3～8名 登録前に必ず、担当教員と面談し、適性の確認を受けてから登録すること。団体行動が苦手な人、虫が嫌いな人、食べ物の好き嫌いが激しい人には向きません。履修登録者に対し、受講費内金として大学より¥20,000が徴収されます。納入締切日(6月末頃)までの入金確認をもって履修確定とし、納入後、キャンセルした場合は、この内金は返金されませんので、登録には注意してください。受講費総額（内金含む）の目安¥35,000前後+北海道往復旅費 3学部合同実施 ※泳げなくても大丈夫です。</p>									

科目名	スポーツ科学実技C (スポーツ)		科目コード	W23014	単位数	1単位	対象 学年	全学年	開講 学期	後期集中
			科目ナンバリング	W-TFSS0-06	時間	16時間				
区分	総合領域科目	選択	担当者名	棟方 達也 八木橋 綱三(実務経験のある教員)			授業 形態	実技	単独	
	教職科目	選択 必修								
授業の 概要等	〔授業の主旨〕 種目：スキー 各自のレベルに応じたグループ学習によりスキルアップを目指すとともに、スキーのおもしろさを学びます。生涯スポーツとしてよりいっそう楽しめるようになりましょう。 ※専門演習Ⅰ（棟方）選択指定科目 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの3に関連している。									
	到達 目標	・安全で楽しい技術の習得 ・スキーの楽しさ、おもしろさの理解								
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容				備 考		
1	ガイダンス			[12月上旬] 要項配布と説明、確認						
2	実習（2泊3日）			<ul style="list-style-type: none"> ・実習地：安比高原スキー場（宿泊予定：安比ヒルズ白樺の森） ・日 程：冬休み中（予定：1月5日～7日） ・内 容：[1日目] 午前 移動 現地到着後、開講式 午後 レッスン1（班分け含む） <li style="padding-left: 20px;">[2日目] 午前 レッスン2 午後 レッスン3 <li style="padding-left: 20px;">[3日目] 午前 レッスン4 午後 レッスン5 終了後、閉講式 移動 ・指導者：八木橋 綱三 ※降雪状況により延期あり ※用具やウエアのない人には、特別格安料金でレンタルあります 				<ul style="list-style-type: none"> ・グループワーク ・デモンストレーション ・自主トレーニング 		
評価 方法 及び 評価 基準	ガイダンスへの出席と実習の受講状況：100%									
課題等	特に無し									
事前事後 学修	特に無し									
教材 教科書 参考書	使用せず									
留意点	履修登録者に対し、受講費内金として大学より¥20,000が徴収されます。納入締め切り日（6月末頃）までの入金確認をもって履修確定とし、納入後にキャンセルした場合、内金は返金されませんので、充分確認の上、登録してください。受講費総額（内金含む）の目安¥45,000前後（宿泊費、リフト代、食費6食分及び交通費含む） 3学部合同実施 ※受講者数次第では、実施形式や実習地の変更または開講しない場合もあります。									

科目名	スポーツ科学実技D (バスケット2)		科目コード	W23015	単位数 時間	1単位	対象 学年	全学年	開講 学期	後期変則
			科目ナンバリング	W-TFSS0-06		16時間				
区分	総合領域科目	選択	担当者名	棟方 達也			授業 形態	実技	単独	
	教職科目	選択 必修								
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>バスケットボールの最も基本的な個人の動きからゲームにおけるチーム（5人）の攻防の展開までを論理的に理解しつつ実践を学びます。但し、実技の授業は、通常、予習や復習ができません。また週に一度の授業で技術はほとんど上手くはなりません。しかし、結果に関わらず「どうすれば」あるいは「なぜそうするのか」を理解し、実際にやってみることが重要です。尚、部活動経験者等との格差を考慮し、また、オフェンス上達の弊害となる無駄な（無意味な）ドリブルの多用を防ぐため原則としてドリブルを使用しないオフェンスに特化します。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの3に関連している。</p>									
到達 目標	<p>バスケットボールという球技を合理的に理解する。そのために、動きや体の使い方の意味を理解し、実践においては、チームの一人一人に必ず役割とやるべきことがあることをふまえ、何をすべきか判断し積極的に動くよう努力する。技術的には、オフェンスにおいては最低限のパスワークとステップ及び運球を体得する。また、マンツーマンディフェンスにおける基本的な構えと位置どりや体の使い方を理解する。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容					備 考		
第1回	ガイダンス		受講者数、経験の有無等の確認 体育館での実技授業の受講に関わる留意点の伝達（コロナ対策含む） ルーブリック配布					場所：体育館（着替えは不要）		
第2回	講義 1		1. 名称、歴史、コート規格等 2. 最終的に5対5のゲームをする際に、最低限知っておくべきルールの解説。					場所：教室		
第3回	講義 2		基礎知識の確認と筆記テスト							
第4回	基本の動き 1		ストップ動作を基軸とするウォーク、ラン、ステップの確認とそれらに関連する重心移動 フットワーク各種、対人の動き							
第5回	基本の動き 2		フットワーク各種、対人の動き							
第6回	基本の技術 1		ボールハンドリング、ピボット、キャッチ、パス、ミート 等							
第7回	基本の技術 2		対面パス（各種のパス）、動きのあるパス、パス&ラン（三角パス、四角パス）							
第8回	オフェンス 1		パス&ラン、シュートの基本（セット、ランニング）、2メン							
第9回	オフェンス 2		シュートの基本、2メン、3メン（3線の理解）							
第10回	オフェンス 3		3メン、アウトナンバー（2対1、3対2）、得点の確率を上げるための合理的な展開							
第11回	ディフェンス 1		マンツーマンディフェンスの基本（位置取りの原則、ボールラインの理解、視野等）1対1							
第12回	ディフェンス 2		マンツーマンディフェンスの基本（位置取りの原則、ボールラインの理解、視野等）2対2、							
第13回	ディフェンス 3		マンツーマンディフェンスの基本（位置取りの原則、ボールラインの理解、視野等）3対3、アウトナンバーディフェンス							
第14回	攻防の展開 1		5対5（ゲーム形式）							
第15回	攻防の展開 2 及び実技テスト		5対5（ゲーム形式）、実技テスト							
評価 方法及び 評価 基準	授業への参加度：50% 実技テスト：30% 学科テスト：20%（出席、遅刻、早退の扱いと実技テストについては「ルーブリック」を参照）									
課題等	特に無し									
事前事後 学修	筆記テストの対応として、最初に配布するプリントの内容と授業内で確認するルールをよく理解しておくこと。実技ですから通常は予習、復習は不可能でしょう。									
教材 教科書 参考書	使用しない									
留意点	<p>原則として男子のみ受講可（女子でも部活動経験等により男子と同等に運動できる自信のある人は受講可とするが、同年度に女子クラスと両方の受講は認めない）3学部合同で実施 定員：24名 受講希望者が24名を超えた場合は、男子を優先し、抽選とします。また、受講者が10名に満たない場合は5対5のゲームができないので、内容を大幅に変更、もしくは開講しない場合もあります。</p> <p>※重要事項：前半の6回分程度を集中授業の形で夏季休業中から開講します。従って、後期の追加登録はできません。受講希望者は、必ず前期中に登録してください。（開講日程の掲示に留意）</p>									

科目名	スポーツ科学実技E (スクーバダイビング)		科目コード	W23016	単位数	1単位	対象 学年	全学年	開講 学期	前期集中
			科目ナンバリング	W-TFSS0-07	時間	16時間				
区分	総合領域科目	選択	担当者名	棟方 達也 土田 浩人(実務経験のある教員)			授業 形態	実技	単独	
	教職科目	選択 必修								
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕 NAUIオープンウォーターダイバー(以下OWD)認定コースを受講することで、スクーバダイビングを通じての海浜(海洋)野外活動を学びます。(2泊3日合宿型) OWDに認定されると、「Certification Card(通称:Cカード)」という世界共通の認定証が取得でき、さらにスキルアップして各種ダイバー資格を取得するための第一歩にもなります。実習期間中に認定に至らない場合、その一歩手前のパスポートダイバーに認定することもできます。 ※既にパスポートダイバー認定を受けている人、あるいはOWD認定を受けている人等で上位コース(アドバンスダイバー等)の受講を希望する人にも対応しますので、相談してください。 ※専門演習I(棟方)選択指定科目</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの3に関連している。</p>									
到達 目標	NAUI OWD認定									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容				備 考		
1.	ガイダンス(7月)			・受講心得・交通手段・費用・装備・事前提出書類等について						
2.	NAUI OWD認定講習プログラム			<ul style="list-style-type: none"> ・学科講習: eラーニング+現地補講 ・実習: 北海道美国町(積丹半島) <p>日 程: 8月23日~25日(2泊3日)+前後移動日</p> <p>内 容</p> <p style="padding-left: 20px;">〔1日目〕午前:実技1 午後:実技2</p> <p style="padding-left: 20px;">〔2日目〕午前:実技3 午後:実技4</p> <p style="padding-left: 20px;">〔3日目〕午前:実技5 午後:実技6</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導者: 土田 浩人 				eラーニングは実習前 ※DIVE-BIDS(美国ダイビングサービス)の正規講習を受講します。 ・グループワーク ・バディシステム		
評価 方法 及び 評価 基準	OWD認定:100% パスポートダイバー認定またはそれと同等のレベルに達している場合:80% ※それ以外の場合は、受講状況と到達度により判断する。									
課題等	特に無し									
事前事後 学修	〔事前〕足の届かない深さで泳げるようになっていること。									
教材 教科書 参考書	現地に於て所定の教材(受講費に含まれる)を配布									
留意点	持病や体質等により受講できない場合がありますので、登録前に必ず、担当教員と面談し 適性の確認 を受けること。履修登録者に対し、受講費内金として大学より¥20,000が徴収されます。納入締切日(6月末頃)までの入金確認をもって履修確定とし、納入後にキャンセルした場合、この内金は返金されませんので、登録には注意してください。受講費総額(内金含む)目安¥54,000程度(講習料、施設使用料、食費など)+北海道往復旅費 3学部合同実施 ※未成年者は、保護者の承諾が必要です。									

科目名	スポーツ科学実技J (アクト'アスポーツ:陸)		科目コード	W23021	単位数	1単位	対象 学年	全学年	開講 学期	前期集中
			科目ナンバリング	W-TFSS0-08	時間	16時間				
区分	総合領域科目	選択	担当者名	棟方 達也				授業 形態	実技	単独
	教職科目	選択 必修								
授業の 概要等	<p>[授業の主旨] 多様化するアウトドアスポーツの中から自身の脚力で陸上移動する2種目を日帰りまたは宿泊を伴って実施します。 ※尚、授業に関する情報はTwitterアカウント『hirogaku254』にて配信していますので参考にしてください。 ※専門演習I(棟方)選択指定科目</p> <p>[ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項] ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの3に関連している。</p>									
到達 目標	・サイクリングの基礎と走り方の習得 ・登山の基礎と歩き方の習得 ・自然との望ましいつきあい方の体得									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容					備 考	
1.	ガイダンス			・実施方法 ・注意事項 ・グループ分け 等						
2.	サイクリング ※ママチャリ可			①基礎知識 ②計画と準備(コース、装備、飲食、整備 その他) ③実習 ・日程: 土日または夏休み ・場所: 津軽地方 ④報告書作成						
3.	登山			①基礎知識 ②計画と準備(コース、装備、飲食、パッキング その他) ③実習 ・日程: 休日または夏休み ・場所: 八甲田山系 ④報告書作成						
評価 方法 及び 評価 基準	ガイダンスを含む授業参加状況: 80% 報告書: 20% (活動内容報告書を所定の形式に従い、指導のもと作成する。)									
課題等	事後報告書(コースタイムとコース状況、装備、飲食等)の提出									
事前事 後学修	特に無し									
教材 教科書 参考書	山と高原地図4『八甲田・岩木山』2021年版 昭文社 ※受講者抽選の場合もあるので、受講が確定してから購入すること。									
留意点	定員: 14名(定員を超える受講希望がある場合、抽選) 交通費、食費等実費は自己負担 社会福祉学部と文学部の合同開講 専門経験を活かした授業です。									

科目名	スポーツ科学実技H (柔道)		科目コード	W23019	単位数	1単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期集中
			科目ナンバリング	W-TFSS0-09	時間	16時間				
区分	総合領域科目	選択	担当者名	高橋 俊哉			授業 形態	実技	単独	
	教職科目	選択 必修		(実務経験のある教員)						
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>柔道の基本を楽しく学習します。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの3に関連している。</p>									
到達 目標	受け身を確実にマスターし、安全に試合を楽しむことができる。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	柔道とは			柔道の歴史と意義、基本動作						
第2回	足技 1			後ろ受け身、大内刈、小内刈						
第3回	足技 2			横受け身、送足払、出足払						
第4回	足技 3			横転横受け身、膝車、支釣込足						
第5回	足技 4			大外刈、小外刈						
第6回	腰技 1			前回り受け身、大腰						
第7回	腰技 2			前回り受け身、釣込腰、体落、袈裟固						
第8回	手技 1			背負投、払腰、内股、横四方固						
第9回	固技 1			立ち技の練習法、上四方固						
第10回	固技 2			約束稽古、縦四方固、肩固						
第11回	固技 3			乱取り、関節技						
第12回	固技 4			乱取り、絞め技						
第13回	審判法			審判法、寝技の練習法						
第14回	試合			試合						
第15回	形			投の形						
評価 方法 及び 評価 基準	授業態度及び参加度50点、実技試験50点により総合的に評価します。									
課題等	なし									
事前事後 学修	事前に柔道の試合について映像等で確認してください。									
教材 教科書 参考書	講道館ホームページ (http://kodokanjudoinstitute.org)									
留意点	貸し出し用柔道着に限りがありますので、用意できる人は持参してください。									

科目名	日本史 A		科目コード	W63011	単位数	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
	科目ナンバリング		W-TFSS0-10	時間	30時間					
区分	総合領域科目	選択	担当者名	齊藤 利男				授業 形態	講義	単独
	教職科目(中一種) (高一種【地歴】)	必修								
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>日本史理解の基本として、日本列島における原日本人の登場から、縄文・弥生時代、邪馬台国、ヤマト政権をへて、「日本国」が誕生するまでを、学びます。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>カリキュラムポリシーの2および、ディプロマポリシーの3に関連している。</p>									
到達目標	他の専門科目や二年次以降の専門科目の学習に必要な日本史（原始・古代史）に関する基本的知識を理解し説明できるようになり、歴史的なものの考え方や分析の方法を身につける。									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容						備 考	
第1回	オリエンテーション		本授業のねらいを、映像を利用しながら説明します。						講義形式	
第2回	日本列島の誕生と縄文文化		日本列島の誕生と新石器時代＝縄文時代の始まりについて学ぶ						講義形式	
第3回	縄文文化の東と西		東北・東日本で栄えた縄文文化と縄文時代の歴史を学ぶ						講義形式	
第4回	弥生時代とはどのような時代か		鉄器農耕文化「弥生文化」の特徴とその誕生について学ぶ						講義形式	
第5回	書きかえられた弥生時代の歴史		研究の発展で書きかえられた弥生時代の歴史を学ぶ						講義形式	
第6回	倭国の登場と邪馬台国		奴国から邪馬台国までの「倭国」の歩みを学ぶ						講義形式	
第7回	「魏志倭人伝」と邪馬台国		邪馬台国と卑弥呼の実像を学ぶ、 ミニレポートはここまでの総括						講義形式	
第8回	ヤマト王権の誕生		崇神王朝・応神王朝とヤマト王権の誕生を学ぶ						講義形式	
第9回	ヤマト政権と倭王国		古墳文化とヤマト政権による「倭国」の統合過程を学ぶ						講義形式	
第10回	統一国家「日本国」への道		ヤマト政権から律令国家への発展過程を概括する						講義形式	
第11回	古代統一国家「日本国」の形成（1）		継体王朝の誕生とヤマト王権の強大化について学ぶ						講義形式	
第12回	古代統一国家「日本国」の形成（2）		乙巳の変（大化改新）をへて律令国家成立に至る歴史を学ぶ						講義形式	
第13回	古代統一国家「日本国」のシステム		律令国家（古代統一国家日本）の構造（ハード面）を学ぶ						講義形式	
第14回	「日本」の誕生		「日本」国号とその採用をめぐる歴史を学ぶ						講義形式	
第15回	「日本国」と東北エミシ		「日本国」とは東北地方の人々にとって何であったかを学ぶ						講義形式	
評価方法及び評価基準	毎回講義終了後、講義の内容に関するミニレポートを提出してもらい（15回×2点＝30点、30%）、また学期末に、講義の内容と到達目標に応じた定期試験を行います（70点、70%）。定期試験は答案の構成や論理性を重視し、両者を合わせて総合評価（合計100点、100%）とします。									
課題等	提出されたミニレポートは、次回の授業で紹介し（質問には回答を行います）、授業内容に反映させます。									
事前事後学修	授業で紹介する参考図書を読んでおいて下さい。授業後は講義の内容と参考図書を照らし合わせて、再確認したり、考える機会とするのが理想的です。									
教材教科書参考書	当方作成の講義テキスト（地図・写真・資料つき）を教材として配布します。参考書は講義の進行に合わせて指示します。									
留意点	知は力なり、そして継続も力です。講義内容に対する突っ込んだ質問を大いに歓迎します。									

科目名	日本史B		科目コード	W63012	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目ナンバリング	W-TFSS0-11		30時間				
区分	総合領域科目	選択	担当者名	齊藤 利男				授業 形態	講義	単独
	教職科目(中一種) (高一種【地歴】)	必修								
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>日本史理解の基本として、近代国家「日本」の歴史を、幕末・維新から、明治国家の成立、日清・日露戦争をへて、植民地帝国「大日本帝国」が成立するまでを学び、さらに、その後を展望します。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>カリキュラムポリシーの2および、ディプロマポリシーの3に関連している。</p>									
到達目標	他の専門科目や二年次以降の専門科目の学習に必要な日本近代史（幕末・維新から日清・日露戦争をへて大日本帝国の成立まで）に関する基本的知識を理解し説明できるようになり、歴史的なものの考え方や分析の方法を身につける。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容				備 考		
第1回	オリエンテーション			本授業のねらいと計画および学習方法についての説明				講義形式		
第2回	開国			ペリー来航と「開国」の実像を学ぶ				講義形式		
第3回	近代国家への課題			開国が鎖国日本に与えた衝撃について学ぶ				講義形式		
第4回	尊王攘夷と幕末の政治抗争			幕末の政治史を学ぶ（その1）				講義形式		
第5回	戊辰戦争と明治維新			幕末の政治史を学ぶ（その2）、ミニレポートはここまでの総括				講義形式		
第6回	明治日本の課題			明治維新後の日本が直面した課題について学ぶ				講義形式		
第7回	近代日本の二つの道			近代日本の進路には二つの選択肢があったことを学ぶ				講義形式		
第8回	軍事大国路線の選択			明治政府が「軍事大国」路線を選択したことを学ぶ				講義形式		
第9回	日清戦争への道			日清戦争は何のための戦争だったのかを学ぶ				講義形式		
第10回	日清戦争圧勝と三国干渉			日清戦争の大勝利がもたらした結果について学ぶ				講義形式		
第11回	日清から日露へ			日清戦争後の日本とアジアについて学ぶ、ミニレポートはこの間の総括				講義形式		
第12回	日英同盟と日露開戦			日本が超大国ロシアと戦うことになったいきさつを学ぶ				講義形式		
第13回	日露戦争、薄氷の勝利			「日露戦争勝利」の内実とポーツマス条約の獲得物について学ぶ				講義形式		
第14回	「大日本帝国」の成立			日露戦争勝利で「大日本帝国」が成立したことを学ぶ				講義形式		
第15回	アジア太平洋戦争への道			「大日本帝国」のその後を学ぶ、ミニレポートは全体の総括				講義形式		
評価方法及び評価基準	毎回講義終了後、講義の内容に関するミニレポートを提出してもらい（15回×2点＝30点、30%）、また学期末に、講義の内容と到達目標に応じた定期試験を行います（70点、70%）。定期試験は答案の構成や論理性を重視し、両者を合わせて総合評価（合計100点、100%）とします。									
課題等	提出されたミニレポートは、次回の授業で紹介し（質問には回答を行います）、授業内容に反映させます。									
事前事後学修	授業で紹介する参考図書を読んでおいて下さい。授業後は講義の内容と参考図書を照らし合わせて、再確認したり、考える機会とするのが理想的です。									
教材教科書参考書	当方作成の講義テキスト（地図・写真・資料つき）を教材として配布します。参考書は講義の進行に合わせて指示します。									
留意点	知は力なり、そして継続も力です。講義内容に対する突っ込んだ質問を大いに歓迎します。									

科目名	歴史と社会A		科目コード	W63013	単位数	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目ナンバリング	W-TFSS0-12	時間	30時間				
区分	総合領域科目	選択	担当者名	石田 和男			授業 形態	講義	単独	
	教職科目(中一種) (高一種【地歴】)	必修								
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 フランスと日本の家族政策の変遷をたどりながら、そこにある違いを見出し、日本の少子化問題の解決策を見出そうとする。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの3に関連し、カリキュラムポリシーの3に関連している</p>									
到達目標	はじめに、フランスの家族の変遷を歴史的に観ていく。そして、フランスの家族政策が人口問題にどのようにかかわっているかを学ぶ。そして、社会の変化に対応しようとして、四苦八苦する姿を見出し、それがやがて家族政策に反映し徐々に人口減少に歯止めがかかり、やがては人口増加に転換するのを観ていく。そして、あらゆる政策のすえに、奇跡ともいえる人口減少に歯止めがかかった様子を検証する。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容				備 考		
第1回	マイレッド・コリガン・マグワイア			ベティ・ウィリアムズと平和団体を設立。 再教育の重要性を強調						
第2回	アムネスティ・インターナショナル			囚人の救済支援、人権擁護、死刑の廃止、難民救済						
第3回	メナヘム・ベギン			イスラエル首相、サダト大統領との和平合意						
第4回	アンワル・サダト			エジプト革命、アラブ連合共和国、イスラエルとの合意						
第5回	マザー・テレサ			終生誓願、カルカッタ聖マリア学院、神の愛の宣教師信徒会						
第6回	アドルフ・ペレス・エスキベル			平和と正義のための奉仕、パーチェム・イン・テリス賞						
第7回	アルバ・ライマル・ミュダール			スウェーデンの福祉国家論						
第8回	アルフォンソ・ガルシア・ロブレス			ジュネーブ軍縮会議、カリブの非核地帯、トラテロコ条約						
第9回	レフ・ワレサ			グダニスク造船所、連帯、ポーランド大統領						
第10回	デズモンド・ムビロ・ツツ			アパルトヘイト、真実平和委員会、ケープタウン大主教						
第11回	核戦争防止国際医師会議			マサチューセッツ州サマービル、 フクシマの被爆許容量修正抗議						
第12回	エリ・ヴィーゼル			強制収容所、小説『夜』、						
第13回	オスカル・アリアス・サンチェス			コスタリカ、国民解放党、大統領						
第14回	国際連合平和維持活動			PK0, ベレー帽、停戦監視団、平和維持軍、選挙監視活動						
第15回	リゴベルタ・メンチュウ			先住民族の権利宣言、「万人の健康社」の設立、						
評価方法及び評価基準	授業への参加度20%、ミニテスト40%、定期試験40% 毎回、授業で発表者を決め、今回は5人ずつのグループを作る。その際に発表内容をレポートとして提出すること。ミニテストは2回行う。授業内容の理解度と表現力があるかを評価対象とする。定期試験では総合的に見て理解度がどこまでいっているかを評価する。									
課題等	各回の主題は事前に調べておくこと。授業後はノートを提出すること。									
事前事後学修	各回の主題は事前に調べておくこと。授業後はノートを提出すること。									
教材教科書参考書	『文明の衝突』 サミュエル・ハンチントン、集英社文庫、下巻 ISBN: 978-4-08-760738-3									
留意点	事前の学習が大切。特に、毎回テーマごとにレポートを用意すること。それをもとにグループごとにディベートを行う。									

科目名	歴史と社会B		科目コード	W63014	単位数	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目ナンバリング	W-TFSS0-13	時間	30時間				
区分	総合領域科目	選択	担当者名	石田 和男				授業 形態	講義	単独
	教職科目(中一種) (高一種【地歴】)	必修								
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 フランスの出生率の高さの原因を探ってきた経緯から、今度は日本の出生率の低さの原因について探っていく。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの3に関連し、カリキュラムポリシーの3に関連している</p>									
到達目標	日本の少子化は1992年から始まったとされる。その後、高齢化と対になる形で使われるようになった。その当時の国民生活白書には、少子化問題の多くがすでに詩的されていた。少子化対策も記されていた。問題は誰もそれを重要なことと受け止めていなかったことである。96年では出生率が1.43まで落ちていた、にもかかわらず放置されていたのである。その原因を徹底して探る。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容				備 考		
第1回	ネルソン・マンデラ			アパルトヘイト、アフリカ民族会議、国民統合政府大統領						
第2回	フレデリック・デクラーク			国民党、民主改革路線、マンデラ釈放、アパルトヘイト法廃止						
第3回	ヤセル・アラファート			ファタハ、PLO、パレスチナ自治政府、						
第4回	シモン・ペレス			新党ラフィ、労働党、PLOとの和解						
第5回	イツハク・ラビン			パルマツハ副司令官、参謀総長、パレスチナ暫定自治宣言						
第6回	パグウォッシュ会議			科学と国際問題に関する会議、 ラッセル・アインシュタイン宣言						
第7回	ジョゼフ・ロートブラット			マンハッタン計画、パグウォッシュ会議、						
第8回	カルロス・ベロ			司教叙階、東ティモール人包括対話						
第9回	ジョゼ・ラモス＝ホルタ			東ティモール民主協会、自決権行使、独立						
第10回	地雷禁止国際キャンペーン			対人地雷の製造と使用禁止のためのNGO、オタワ条約						
第11回	ジョディ・ウィリアムズ			エルサルバドル内戦、ホンデュラス教育計画、地雷廃絶						
第12回	ジョン・ヒューム			クレジットユニオン運動、ベルファスト合意						
第13回	デヴィッド・トリンブル			北アイルランド、社会民主労働党						
第14回	国境なき医師団			ナイジェリア内戦、ベトナム船、マラリア撲滅						
第15回	金大中			新民党、拉致、民主救国宣言、光州事件、国家情報院廃止						
評価方法及び評価基準	授業への参加度20%、ミニテスト40%、定期試験40% 毎回、授業で発表者を決め、今回は5人ずつのグループを作る。その際に発表内容をレポートとして提出すること。ミニテストは2回行う。授業内容の理解度と表現力があるかを評価対象とする。定期試験では総合的に見て理解度がどこまでいっているかを評価する。									
課題等	各回の主題は事前に調べておくこと。授業後はノートを提出すること。									
事前事後学修	各回の主題は事前に調べておくこと。授業後はノートを提出すること。									
教材教科書参考書	『文明の衝突』 サミュエル・ハンチントン、集英社文庫、下巻 ISBN:978-4-08-760738-3									
留意点	必ず予習をしておくこと。発表を重視するので何回発表してもよい。またそれをレポート提出すれば、まだよい。									

科目名	地誌A		科目コード	W63019	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目ナンバリング	W-TFSS0-14		30時間				
区分	総合領域科目	選択	担当者名	高橋 未央				授業 形態	講義	単独
	教職科目(中一種) (高一種【地歴】)	必修								
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>① 地誌を学ぶための基礎知識 ②世界の気候と大気循環 ③青森の気候と地形 ④自然環境から育まれる人々の暮らし</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの2および3に関連する。カリキュラムポリシーのすべてに関連する。</p>									
到達 目標	自然環境豊かな青森県の自然が、地形や気候条件などの様々な自然条件が複雑に関係して生まれる過程を学び、そこから派生する人々の暮らしをグローバルな視点で考察できることを目標とする。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容				備 考		
第1回	イントロダクション			地誌とは				講義		
第2回	世界の気候と大気循環①			世界の気候				講義		
第3回	世界の気候と大気循環②			大気大循環				講義		
第4回	日本の気候			季節風の影響をうけて変化する日本の気候				講義		
第5回	青森の気候			ヤマセについて				講義		
第6回	青森の平野①			津軽平野の地形発達史				講義		
第7回	青森の平野②			津軽平野と人々の暮らし				講義		
第8回	青森の平野③			三本木原台地の自然と開発				講義		
第9回	湖の景観と成因①			海面変動と湖沼群				講義		
第10回	湖の景観と成因②			火山運動による湖沼群				講義		
第11回	火山が生み出す環境①			青森に発達する火山とその地形				講義		
第12回	火山が生み出す環境②			火山がもたらす恵み				講義		
第13回	気候変化と植生①			10万年周期の気候変動				講義		
第14回	気候変化と植生②			青森の植生の特徴				講義		
第15回	気候変化と植生③			高山帯・亜高山帯の植生				講義		
評価 方法 及び 評価 基準	試験、小レポート									
課題等	各回のおわりに授業のまとめとして小レポートを課す。									
事前事 後学修	事前学習として、シラバスの講義内容を確認して、図書などで調べて授業に参加し、事後学習は、各講義の終わりに、次回の授業のキーワードを発表するので、授業内容を復習した上で調べておくこと。									
教材 教科書 参考書	高等学校で使用した(または同程度の)地図帳を、毎回持参すること。教科書は特に指定せず、授業時に資料を配布する。地形図の判読などで、色鉛筆を使用する。最低でも3色(黄、橙、緑)程度、用意すること。									
留意点										

科目名	地誌B		科目コード	W63020	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目ナンバリング	W-TFSS0-14		30時間				
区分	総合領域科目	選択	担当者名	高橋 未央				授業 形態	講義	単独
	教職科目(中一種) (高一種【地歴】)	必修								
授業の 概要等	【授業の主旨】 ① 地誌を学ぶための基礎知識 ②世界の気候と大気循環 ③各地の気候と地形 ④自然環境から育まれる人々の暮らし 【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】 ディプロマポリシーの2および3に関連する。カリキュラムポリシーのすべてに関連する。									
到達 目標	世界の自然が、地形や気候条件などの様々な自然条件が複雑に関係して生まれる過程を学び、そこから派生する人々の暮らしを考察できることを目標とする。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容				備 考		
第1回	世界の気候と植生①			世界の気候と各地域の気候の特徴				講義		
第2回	世界の気候と植生②			世界の植生と各地域の植生の特徴				講義		
第3回	世界の気候と植生③			世界の植生と各地域の植生の特徴				講義		
第4回	東南アジア①			タイ王国の気候				講義		
第5回	東南アジア②			タイ王国の植生				講義		
第6回	東南アジア③			タイ王国における人々の暮らし				講義		
第7回	東南アジア④			タイ王国と日本				講義		
第8回	東南アジア⑤			タイ王国における自然災害と防災				講義		
第9回	東南アジア⑥			タイ王国における自然災害と防災				講義		
第10回	南アジア①			ネパールの気候				講義		
第11回	南アジア②			ネパールの植生				講義		
第12回	南アジア③			ネパールにおける人々の暮らし				講義		
第13回	南アジア④			ネパールと日本				講義		
第14回	南アジア⑤			ネパールにおける自然災害と防災				講義		
第15回	南アジア⑥			ネパールにおける自然災害と防災				講義		
評価 方法 及び 評価 基準	試験、小レポート									
課題等	各回のおわりに授業のまとめとして小レポートを課す。									
事前事 後学修	事前学習として、シラバスの講義内容を確認して、図書などで調べて授業に参加し、事後学習は、各講義の終わりに、次回の授業のキーワードを発表するので、授業内容を復習した上で調べておくこと。									
教材 教科書 参考書	高等学校で使用した(または同程度の)地図帳を、毎回持参すること。教科書は特に指定せず、授業時に資料を配布する。地形図の判読などで、色鉛筆を使用する。最低でも3色(黄、橙、緑)程度、用意すること。									
留意点										